

# 3.介護保険領域

## - デイサービス -

---

# 経過

---

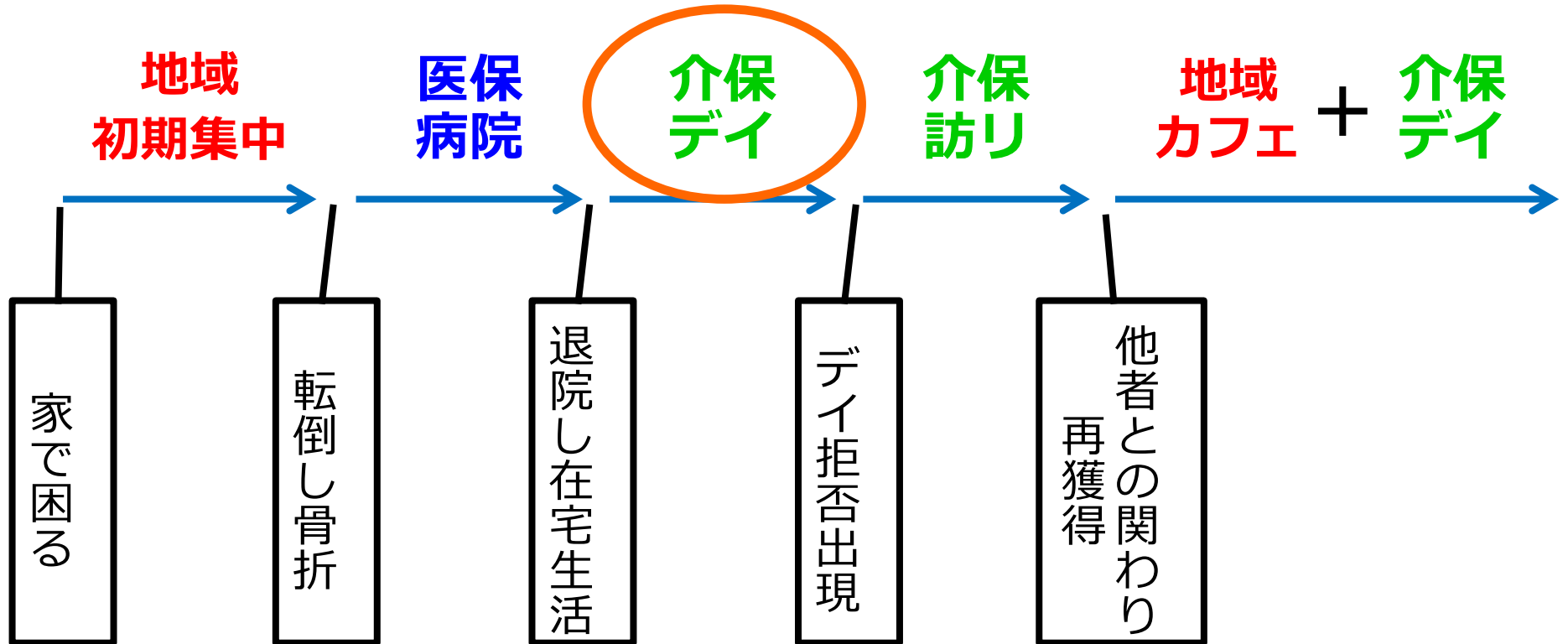
回復期病院から退院。

- ・ 杖歩行自立レベル
- ・ 排泄時たまに失敗あるがほぼ自立
- ・ 入浴は拒否傾向だが、火金のリズムで入っていた
- ・ 料理は訓練で行い、表情良く行っていた

退院時のサービス調整で、デイサービス利用開始する。

# 経過

状態の変化に合わせて、様々なサービスが介入する。



# 通所サービスの種類と特徴

豆知識

	通所リハ (デイケア)	通所介護 (デイサービス)	認知症対応型通所介護
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・リハビリテーション</li><li>・医学的管理</li><li>・レスパイト</li><li>・社会参加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・レスパイト</li><li>・社会参加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・レスパイト</li><li>・日常生活のケア、機能訓練</li></ul>
人員	<ul style="list-style-type: none"><li>・医師</li><li>・セラピストor看護師、柔道整復師など</li><li>・介護職員</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・看護師</li><li>・介護職員</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・看護師</li><li>・介護職員</li><li>・介護指導者研修修了者</li></ul> ※市町村により異なる
特徴	<p><b>医師の指示の下</b>、集中的にリハビリを行う。期間を決めて、目的に応じたリハビリを提供することが求められる。</p>	<p><b>日常生活のケアや他者との交流が主な目的</b>。セラピストがいるデイサービスや半日型のリハ特化型デイなど、<b>多様化が進んでいる</b>。</p>	<p><b>地域密着型サービス</b>。認知症の方に対応するため<b>少人数制</b>で人員配置は手厚く設定。多様な症状に対応できる個別性が求められる。</p>

	<b>重度認知症デイケア</b>
<b>目的</b>	精神症状及び行動異常が著しい認知症患者（「認知症高齢者の日常生活度判定基準」がランクMに該当するもの）の精神症状等の軽快及び生活機能の回復を目的とし、心身機能の回復又は維持を図る
<b>人員</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・精神科医師</li><li>・作業療法士</li><li>・看護師</li><li>・精神保健福祉士</li></ul>
<b>特徴</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・精神科病棟の医療保険のデイケア</li><li>・精神科医師の指示の下、集中的にリハビリを行う</li></ul>

# 症例経過 - デイサービス利用開始 -

## ◆主な利用目的

- ・ 転倒リスクがまだあるため、体力の低下予防
- ・ 他者との交流機会確保等により、認知症症状の悪化予防
- ・ 入浴機会の確保
- ・ 外出機会確保により、夫の介護負担軽減

## ◆病院からの情報

- ・ 杖歩行屋内自立レベル。慣れない場所や屋外は要見守り。
- ・ 病院では、火曜・金曜の14時頃入浴していた。
- ・ 調理訓練では、笑顔が多く見られた。

# 症例経過 - アセスメント -

認知症疾患	アルツハイマー病
身体疾患・機能	大腿骨骨折、プレート固定術後 T杖歩行屋内自立レベル
中核症状	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 記憶障害：同じ内容を繰り返し話す。病院では、環境を取り違えることあり。</li><li>・ 遂行機能障害：料理や</li></ul>
行動心理症状	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 意欲低下：基本的にはあまり動きたがらない。タイミングが合わないと、外出、入浴などは拒否あり。</li><li>・ 易怒性：声かけに対し怒ることがある</li><li>・ 不安：自分の能力低下に対する不安、環境変化への不安は強い</li></ul>

# 症例経過 - アセスメント -

生活障害	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 食事、排泄は問題ない。夜間ポータブルトイレ使用。</li><li>・ 入浴は、病院で火・金14時頃入っていた。</li><li>・ 料理の練習は笑顔多くできていた。</li></ul>
社会的状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 夫は、協力的。病院で関わり方を指導されてきた。</li><li>・ また、入浴拒否や転倒があるのではないかと不安。</li><li>・ 長男夫婦は、関係は悪くないが、仕事が忙しく介入はあまりない</li></ul>



# 症例経過 - アプローチ 全体方針 -

---

- 環境の変化による不安が強いため、交流しやすい席や反応が良いと情報がある料理体験を行い、快刺激を多くする。
- 病院からの情報を参考に、馴染みの物品をデイにも持ってくるようにする。
- 利用曜日は火・金とし、入浴は14時頃にして、病院で習慣化されていた入浴習慣を継続する。
- 体力低下予防に適度な運動メニューは実施する。

# 症例経過 - アプローチ項目 -

## ◆体力低下予防

- ・体操指導（できれば夫とできる体操も）
- ・杖歩行練習

## ◆認知症症状悪化予防

- ・会話できそうな女性と同じ席に
- ・料理体験の機会作る
- ・馴染みの物を持ってくることで、不安解消

## ◆入浴機会確保

- ・病院のリズムと同じように、火金の14時頃～に設定
- ・同席の方との関係が作れば、一緒に誘ってもらおう

# 症例経過 - 利用状況 入浴 -

病院からのリズムと同様にしたこと、促しに応じてくれる。しかし、拒否することもあり。



## 原因分析

- 誘導の時間帯がバラバラになってしまう。  
本人のタイミングと合わない拒否する傾向。
- 送迎の時間やデイサービスのスケジュールなど、こまめに時計を見て気にしている。  
JR勤務の経験から？

# 症例経過 - 利用状況 入浴 -

## 対策

- 誘導の時間帯をなるべく同じにする。  
目安の時間をメモして席に貼っておく。
- 同席の方もなるべく同じ時間帯に誘導する。  
席と浴室で同じ顔が見られることで、環境の変化を少なくする。



周囲の動きに合わせて、スムーズに拒否なく入浴できる。

◆方法の選択肢

献立

計画

準備

料理

食べる



スタッフが  
決める

スタッフが  
決める

スタッフが  
買い物

スタッフが料  
理するのを見  
てもらう

スタッフと  
食べる

本人と決め  
る（思い出  
聴取）

材料と工程  
を話し合う

一緒に買い  
物

本人とスタッ  
フで料理

仲間と食べ  
る

馴染みの店  
に買い物へ

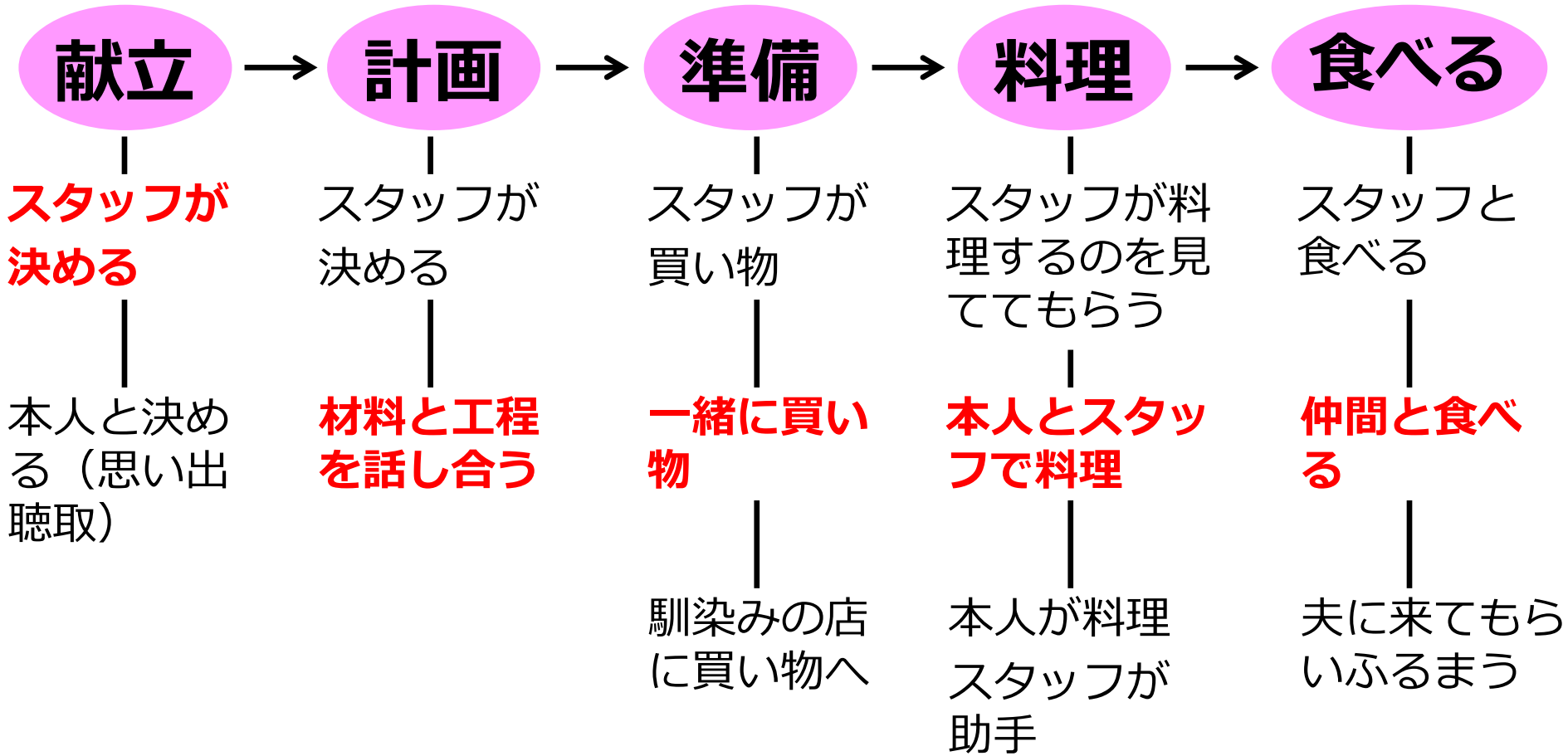
本人が料理  
スタッフが  
助手

夫に来てもら  
いふるまう

どの方法が最も快刺激を強化できるか？

# 症例経過 - 利用状況 料理 -

## ◆ヨシコさんの場合



最初は手伝ってもらうというスタンスで。  
同席の人も誘って一緒に。

# 症例経過 - 利用状況 -

デイサービスの環境には慣れ、同席の方との関係も良好なものになった。

## デイサービスのここが良い！

豆知識

- 本人がよそ行きになる  
(家族もよそ行きの本人を見られる)
- 周りの利用者につられて・・・の誘導がしやすい
- 人が多いので、選択肢も豊富になる

# 症例経過 - デイ拒否～訪問リハへ -

デイサービスの利用は安定していたが、ある時期から拒否が強くなる・・・。

- 原因を探っていくと、新しい症状として、自宅での排泄の失敗が見られた。排泄の失敗に対して、自尊心が傷つき、羞恥心もあり、他者との関わりを避けるようになったと思われる。
- 拒否があっても訪問するなど対応を試みたが、デイスタッフや夫への攻撃的な言動も出現し、デイサービス継続困難と判断。
- 自宅での対応検討のため、訪問リハを利用することになる。

支援主体は、介護保険領域 訪問リハへ・・・